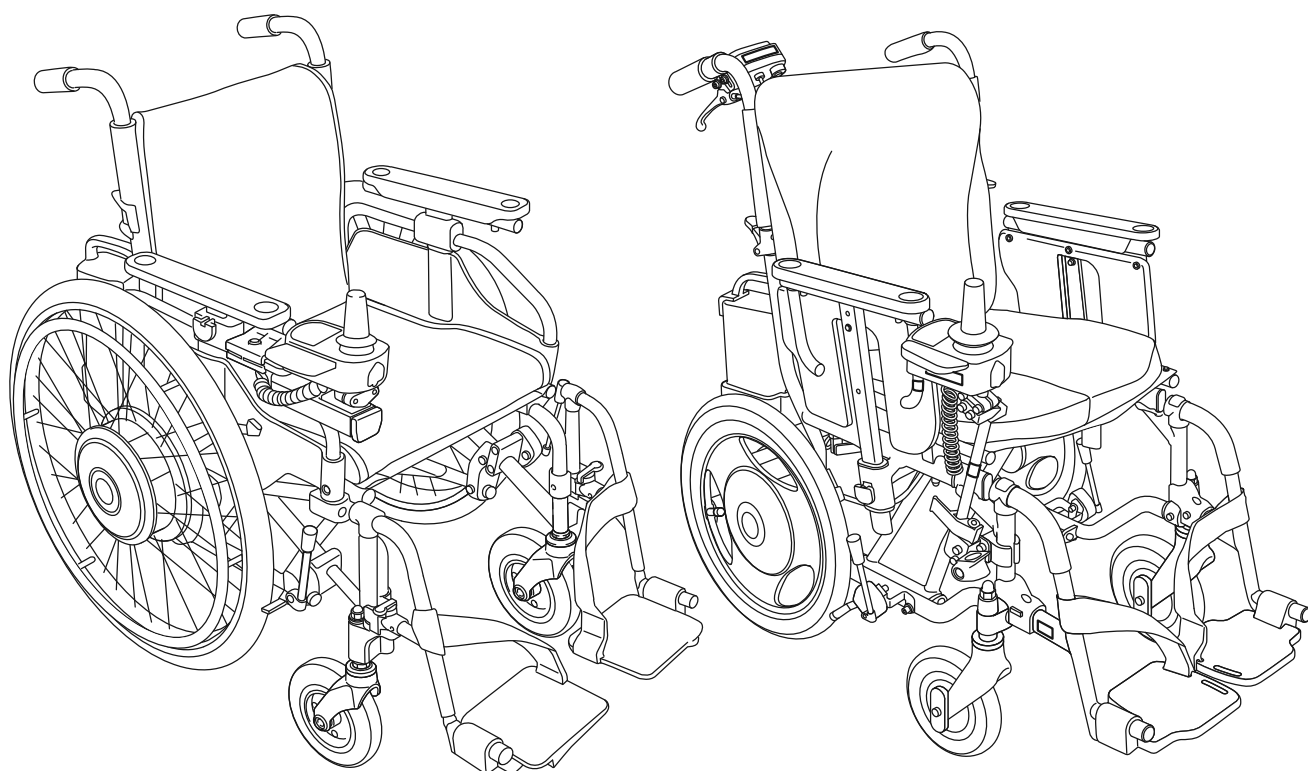


軽量型電動車いす

遊歩 アクティブ[®] 遊歩 ジョイ

取扱説明書

保存用
保証書付



serio セリオ

このたびは、株式会社セリオの車椅子をお買い上げいただき、ありがとうございます。
この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意事項や正しい使い方が説明されています。

ご使用になる前には、必ずお読みください。

また、保証書(裏表紙)が付いておりますので紛失しないように大切に保管してください。安全にご使用していただくために、点検・記録表が付いておりますので、ご自身・お買い求めの販売店で定期的に点検をしていただくようお願いいたします。

この車椅子は車載を前提に設計されておりません。

この車椅子は車の座席としての強度を考慮しておりません。

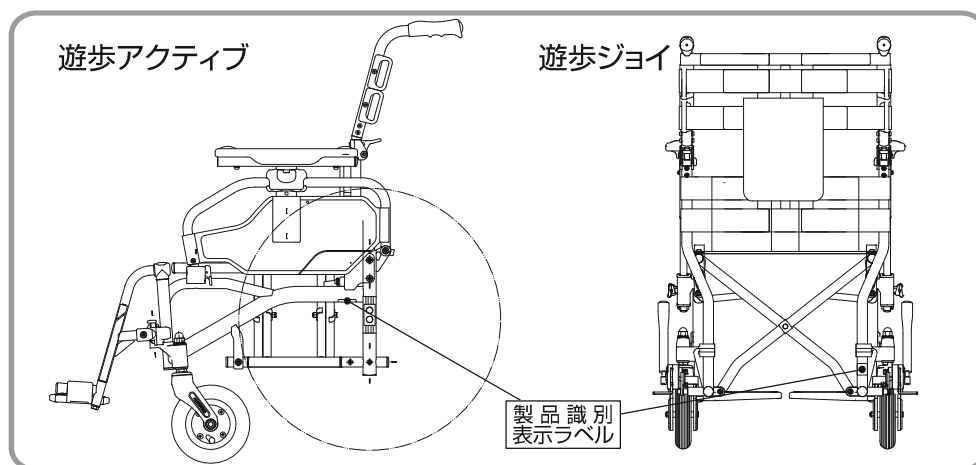
座席として使用した場合には車載時の負荷により、車椅子が破損する場合があります。

●JWG-1の取扱説明書も必ずお読みください。

車椅子が、身体に合わない状態ではご使用にならないでください。

健康をそこなう恐れがあります。そのような場合は、購入されたお店、かかりつけの病院にご相談ください。

購入された製品の型式をご確認ください。型式は、下記位置に表示してあります。



●お買い上げの車椅子は改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。

●ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店までお問い合わせください。

ご使用前に

出荷時には検査をしておりますが、ご使用前に次のご確認をお願いいたします。

- 箱が破損したり、濡れたりしていないか。
- 各部の破損・キズ、フレームのゆがみ、ボルト・ナットや部品の脱落はないか。
- 付属品はすべて揃っているか。
- タイヤの空気圧は適正か。(タイヤを指で押さえ確認してください。)(P.7参照)

もし異常があればご使用にならず、すぐにお買い求めの販売店または、弊社までご連絡ください。

目次

安全にお使いになるためのご注意	2
機種一覧	5
各部名称	5
機能説明	6
ご使用方法	7
ご使用の前に	7
広げ方	7
折りたたみ方	9
乗り方・降り方	10
手動での動かし方	11
介助の仕方	12
外出時の注意	13
その他の注意	14
各部機能の使用方法	17
駐車用ブレーキ	17
アームサポート	18
フットサポート	20
フット・レッグサポート	22
もしこんなトラブルが発生したときは	23
車椅子のお手入れの方法	24
保管場所・保証・アフターサービス	24
車椅子 点検シート	25
クッションカバーなどの洗濯	25

安全にお使いになるためのご注意



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

お守りいただく内容の説明



この表示は、してはいけない「禁止」内容です。



この表示は、必ずしていただく「強制」内容です。



警告

(禁止)



しては
いけない

- 故障、異常のあるときは、直ちに使用を中止してください。
事故、転倒・転落によるケガ等の原因となります。
- タイヤの空気圧が低い状態で、使用しないでください。
ブレーキのロックができなくなり、車椅子が動き、事故等の原因となります。また、タイヤのパンクの原因となります。
- バックサポート折りたたみのロックレバーに、かばんなどを引っ掛けないでください。
- フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
車椅子がバランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。
- 車椅子のシートの上で立ち上がらないでください。
転倒・転落事故等の原因となります。
- 二人乗りやけん引をしないでください。
車椅子が故障したり、使用者がけがをしたりするおそれがあります。
- バックサポート(背もたれ)に重い荷物をかけたり、小物入れに重いものを入れたりして走行しないでください。
特に上り坂では後ろに倒れやすくなり、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。
- 自走用操作部のジョイスティックに物をかけないでください。
物の重さで手を放してもジョイスティックが戻らず、車椅子が停止しなかったり、操作の邪魔になったりするおそれがあります。
- 勾配10%(6°)以上の坂道で車椅子を使用しないでください。
転倒したり、制動が効かなくなったりするおそれがあります。
- 走行するときは、フットサポートを跳ね上げた状態にしないでください。
正しい姿勢が保てなかったり、足を巻き込まれたりしてけがをするおそれがあります。
- フットサポートの上に立ったり、乗り降りの際にステップとして使用したりしないでください。
バランスを崩し、転倒するおそれがあります。また、フットサポートが破損する原因となります。
- 転倒防止バーが折りたたまれた状態で走行しないでください。
介助操作で段差を乗り越えるときなどに限って、転倒防止バーを折りたたんだ状態で使用できます。しかし、そのまま転倒防止バーが折りたたまれた状態で走行すると、車椅子が転倒するおそれがあります。
- 自走用操作部のUSB電源ポートにUSB機器を接続したまま走行しないでください。
障害物に衝突したときにUSB電源ポートに力加わり、自走用操作部が破損するおそれがあります。接続したUSB機器のケーブルがジョイスティックやクラッチレバー、リヤタイヤなどに巻きつき、事故の原因となるおそれがあります。
- アームサポートを跳ね上げたまま走行しないでください。
跳ね上げたまま走行すると、車椅子の使用者の身体がリヤタイヤに触れたり、衣服が巻き込まれたりして、けがをするおそれがあります。
- 走行中にリヤタイヤやホイールに触れたりしないでください。
ご自身がけがをするおそれがあります。

(禁止)  しては いけない	■フット・レッグサポートの取り外しができる車椅子を持ち上げるときは、絶対にフット・レッグサポートを持たないでください。 不意にフット・レッグサポートが外れ、けがや機器の損傷の原因となります。 ■走行するときは、絶対にフット・レッグサポートを取り外した状態にしないでください。 正しい姿勢が保てなかったり、足を巻き込まれたりしてけがをするおそれがあります。
(強制)  必ずして いただく	■バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音がして、完全に出ていることを確認してください。 急にバックサポートが倒れ、転倒・転落事故等の原因となります。 ■車椅子に乗る・降りる前やベッドへの移乗時には、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。 車椅子が動き、転倒・転落事故等の原因となります。 ■側溝の格子蓋や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者に支えていただいて行ってください。 車輪が溝にはまって、転倒・転落事故等の原因となります。 ■介助者は側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャスト(前輪)が落ち込まないように注意してください。 車椅子が急に止まり、使用者の身体が前方に傾き、転倒・転落事故等の原因となります。 ■車椅子への乗り移りは、平坦な場所で行なってください。 傾いた場所で車椅子に乗り移ると、バランスを崩して、車椅子から落ちてけがをするおそれがあります。 ■かかとがフットサポートベルトで適切に保持されるように、取扱店でベルトの張りを調整してください。 かかとがキャストと接触して、けがをするおそれがあります。 ■バッテリー残量警告ブザーが鳴ったときは、速やかに安全な場所に移動してください。 道路横断中などに身動きが取れなくなると、事故の原因となるおそれがあります。安全な場所に移動してから予備バッテリー(別売)に交換するか、バッテリーを充電してください。 ■アームサポートは必ずロックされていることを確認してください。 ロックされていない状態で走行すると、不意にアームサポートが動いて、車椅子から落ちるおそれがあります。 ■フットサポートの高さを調整しても、フットサポートが走行中に路面と当たることがある場合は、取扱店に相談してください。 走行中にフットサポートが段差などに当たり車椅子が急停止して、使用者がけがをしたり、フットサポートの下面側が削れたりするおそれがあります。

注意

(禁止)  しては いけない	■バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。 車椅子が不安定になり、転倒・転落事故等の原因となります。 ■車椅子を払げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。 パイプに手や指を挟んでケガをする原因となります。 ■タイヤを持って車椅子を操作しないでください。 駐車用ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。 ■スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。 摩擦で手にケガをする恐れがあります。 ■走行中、身体を乗り出さないでください。 バランスが不安定になり、転倒・転落事故等の原因となります。 ■車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。 手や指を挟んで、ケガをする原因となります。 ■バックしながら急停止しないでください。 転倒・転落事故等の原因となります。 ■凹凸のある路面では、前かがみの姿勢で使用しないでください。 バランスを崩し、前に転倒・転落事故等の原因となります。 ■バックサポートパイプ(グリップ)のみで、キャスト(前輪)を上げないでください。 バックサポートパイプが曲がったり折れたりして、転倒・転落事故等の原因となります。 ■スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。 使用者が車椅子から転倒・転落し事故等の原因となります。
--	---

(禁止)  しては いけない	■車椅子を横向きに倒して、上に物を置かないでください。 重みで車輪フレームが曲がったりして、故障の原因となります。 ■火気の近くに置かないでください。 タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。 ■急ブレーキをかけないでください。 使用者が前方へ転倒する恐れがあります。 ■アームサポートを持って、車椅子を持ち上げないでください。 ケガ、転倒・転落事故等の原因となります。 ■アームサポートを跳ね上げた状態で、アームサポートに力を加えないでください。 破損等の原因となります。
(強制)  必ずして いただく	■車椅子を上げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。 パイプが曲がったりして、転倒・転落事故等の原因になります。 ■車椅子を折りたたむ際には、バックサポートのポケットの中に物が入っていないことを確認してください。 ポケットの中の物が破損したり、車椅子の故障の原因となります。 ■坂道を下るとき介助者は、下り坂の下側に立ち、確認しながら後ろ向きにゆっくりと走行してください。 前向きで下ると、使用者がすり落ちたり、前のめりとなり、転倒・転落事故等の原因となります。 ■移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。 ■フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。 ■必ず駆動輪(主輪)が動かないことを確認してから手を離してください。 車椅子が動き、事故等の原因となります。 ■フットサポートの高さは地面より5cm以上でご利用ください。 路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車椅子が止まり、転倒事故等の原因になります。 ■フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。 フットサポートが脱落し、事故、ケガ等の原因になります。 ■スイングアウトを戻したときは、ロックが確実にされているか確認してください。 足を乗せたとき、外れて足をケガする原因となります。 ■スイングアウトや着脱・取り付け操作時に、手を挟まないように注意してください。 ■アームサポートを取り付けたときは、完全にロックしている事を確認してください。 転落事故等の原因となります。 ■アームサポート調整レバーのロックが確実にされていることを確認してください。 ■アームサポート(パッド)の下に手など入れないようにしてください。

機種一覧

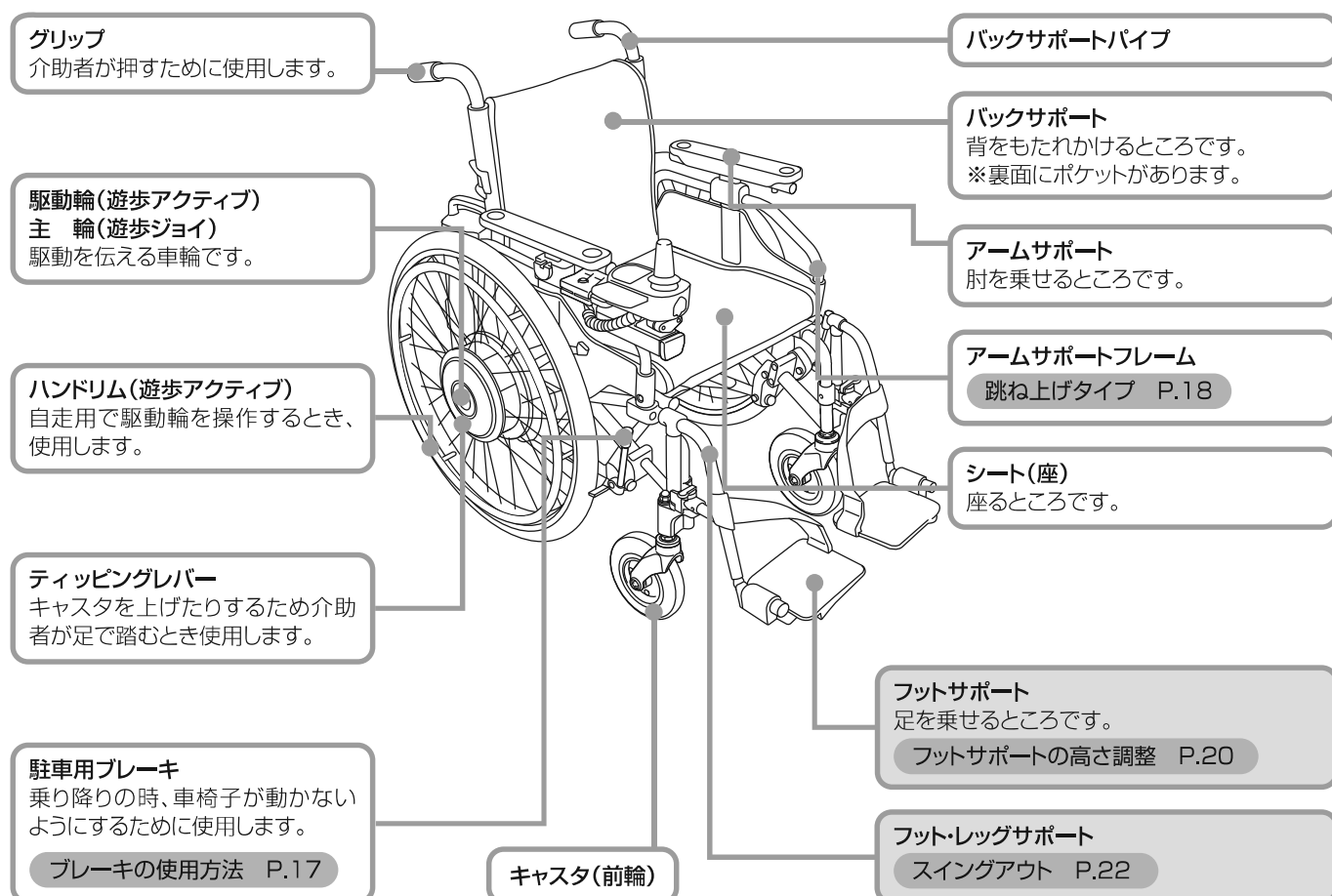
機 種	キャスト (インチ)	大車輪 (インチ)	前座高 (mm)	後座高 (mm)	シート幅 (mm)	シート奥行き (mm)	アームサポート高 (mm)	バックサポート高 (mm)	フット長 (mm)	全長 (mm)	全高 (mm)	全幅 (mm)	フレーム重量 (kg)
遊歩アクティブ	7	22	440	410	420	385	240~300	480	330~	1035	925	660	13.5
遊歩ジョイ	6	16	425	410	410	390	0,90~240	450	345~	1015	880	585	12.1

※ JIS T 9201 : 2016 による表記になっております。(従来と計測方法が異なる部分があります。)

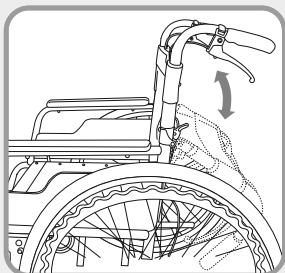
※フット長：フットサポート・シート間距離。 ◎改良のため予告なしに仕様を変更することがあります。

各部名称

遊歩アクティブ/遊歩ジョイ



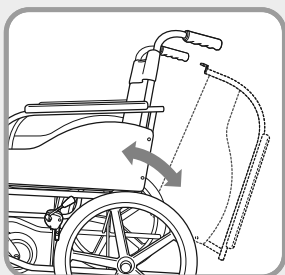
〈バックサポート〉



折りたたみ

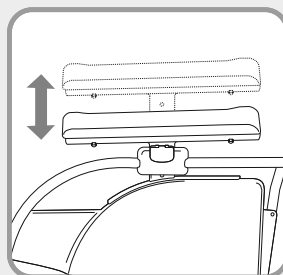
バックサポートパイプを折りたたむことができ、自動車等への積み込みが容易に行えます。

〈アームサポート〉



跳ね上げ

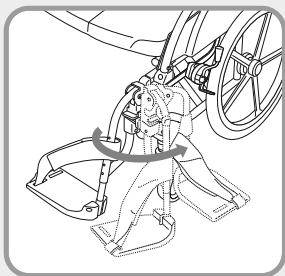
簡単なワンタッチ操作でアームサポートの跳ね上げができます。ベッド等の移乗時に大変便利です。介助軽減にも役立ちます。



高さ調整

アームサポートの高さを簡単な操作で調整することができます。使用者の体格に合わせて、クッションの有無にも対応できます。

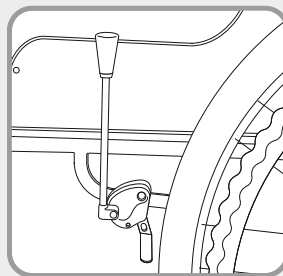
〈フット・レッグサポート〉



スイングアウト

フット・レッグサポート部が開閉でき着脱可能です。ベッド、トイレ等への接近が容易です。片手片足操作にも適しています。樹脂製で、操作も簡単です。

〈駐車用ブレーキ〉



ミニタックル(標準用)

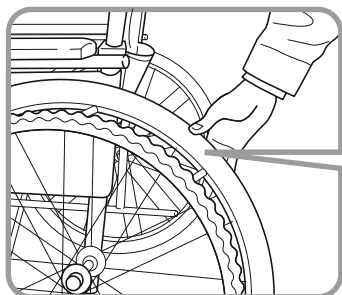
乗り降りの際に車椅子が動かないようにするために使用します。

ご使用方法

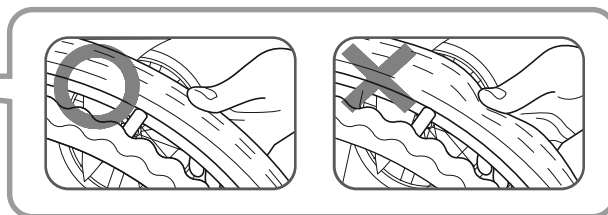
ご使用の前に

■ご使用前に、安全にご使用していただくため、次の確認をお願いします。

- ・タイヤの摩耗・亀裂はないか。
- ・タイヤの空気圧は適正か。
- ・ブレーキに異常はないか。
- ・ブレーキをロックした時、駆動輪・主輪が回転しないか。



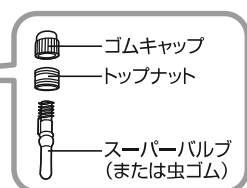
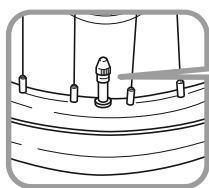
タイヤを親指で押し、容易にへこむ場合は、
自転車用空気入れで空気を補充してください。



適正空気圧
遊歩アクティブ 450kPa
遊歩ジョイ 345kPa

タイヤの空気バルブの
トップナットが緩んで
いないか確認してください。

タイヤの空気がすぐに抜けるときは、
スーパーバルブ(または虫ゴム)を
交換してください。



警告

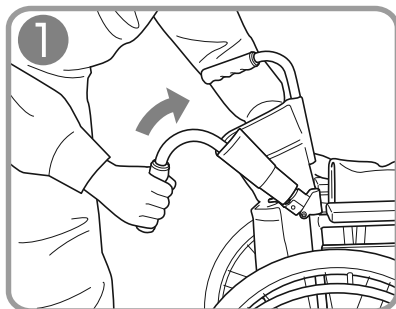
- タイヤの空気圧が低い状態で、
使用しないでください。
(ブレーキのロックができなくなり、
車椅子が動き、事故等の原因とな
ります。また、タイヤのパンクの原
因となります。)

してはいけない

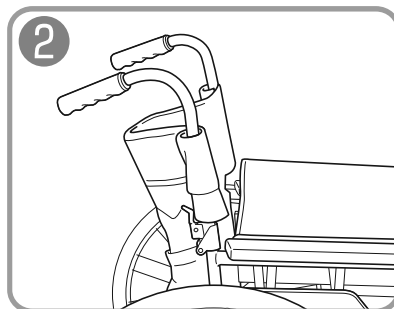
広げ方

*バックサポート折りたたみを起こす際は、必ず車椅子を折りたたんだ状態で行ってください。
(広げた状態で行くと、バックサポートがバックサポートパイプに引っ張られ、ロックできなくなります。)

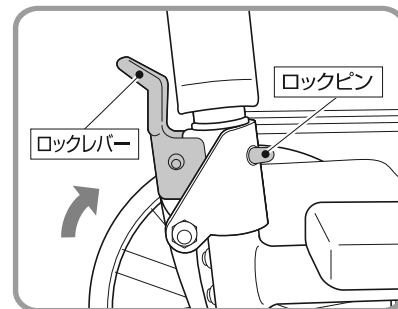
- ① グリップを持ち、矢印方向に、
持ち上げます。



- ② バックサポートを
両側起こします。



- ロックレバーを
矢印方向に起こします。



警告

- バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音がして、完全に出ていることを確認してください。
(急にバックサポートが倒れ、転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく



注意

- バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。
(車椅子が不安定になり、転倒・転落事故等の原因となります。)

してはいけない

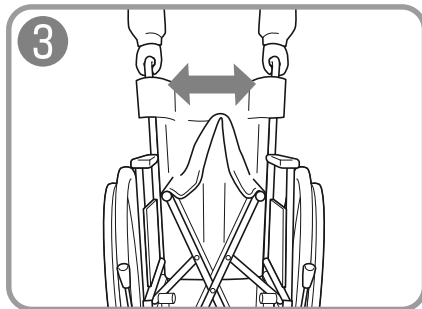


警告

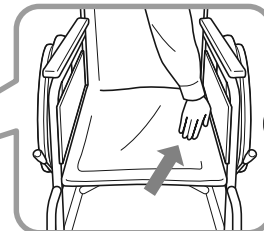
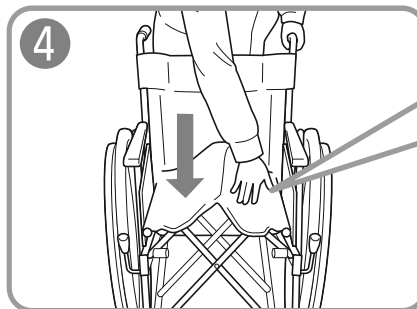
- バックサポート折りたたみのロックレバーに、かばんなどを引っ掛けないでください。

してはいけない

- ③ 車椅子の後方に立ち、左右のグリップを持って両側に拡げます。

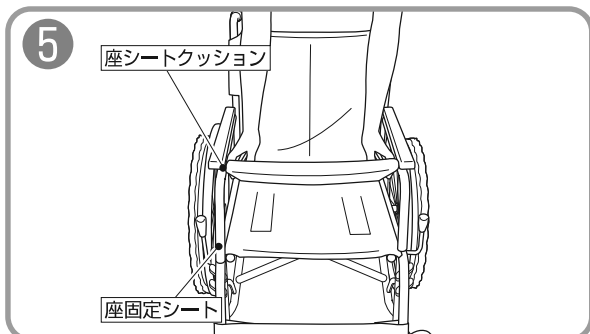


- ④ 片側のグリップを手で持ち、シートを手で下に押し下げると、車椅子が拡がります。



※手・指に注意

- ⑤ 座シートクッションを、固定シートに固定する。



注意

- 車椅子を拡げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
(パイプに手や指を挟んでケガをする原因となります。)

してはいけない



注意

- 車椅子を拡げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。
(パイプが曲がったりして、転倒・転落事故等の原因になります。)

していただく



注意

- 座シートクッションのマジックテープは確実に固定してください。
(シートがズれて、転倒事故の原因となります。)

していただく



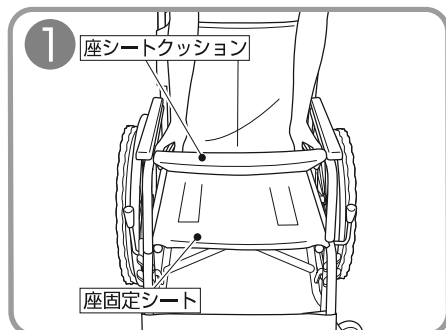
注意

- マジックテープに付いた、糸くずや汚れを取り除いてください。
(接着力が弱くなり、衝撃を受けた時に外れ、転倒事故の原因となります。)

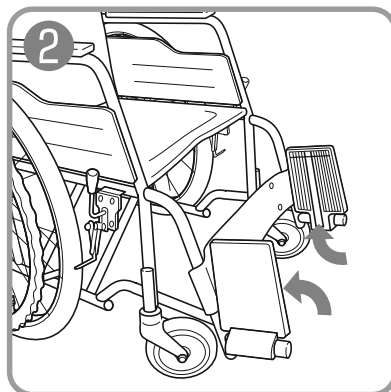
していただく

折りたたみ方

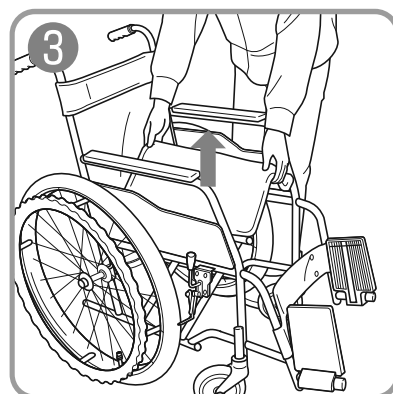
① 座シートクッションを外す。



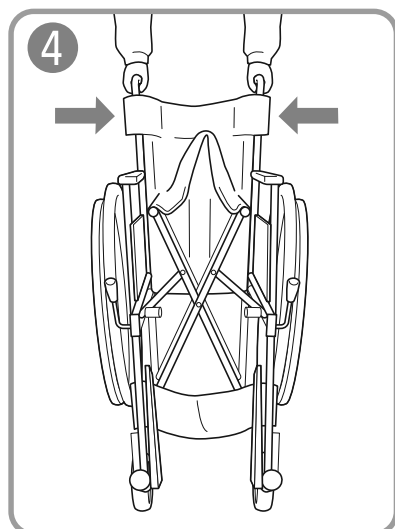
② フットサポートを矢印方向に回転させて跳ね上げます。



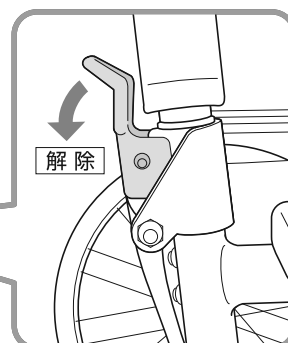
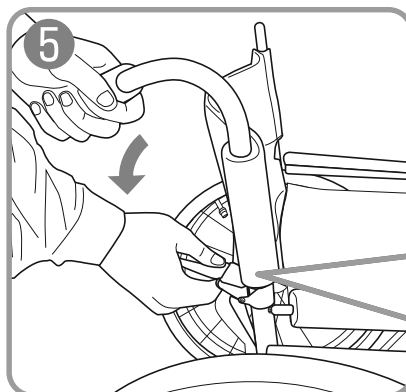
③ シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げます。



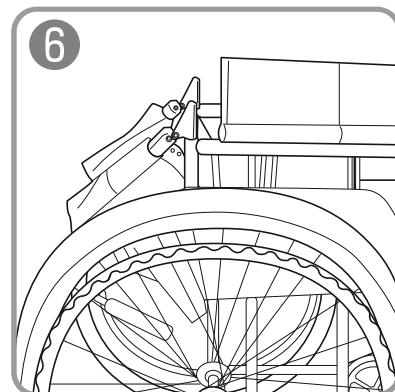
④ 左右のグリップを持ち内側にたたみます。



⑤ グリップを片手で持ち、ロックレバーを後方に倒し、バックサポートを倒します。



⑥ バックサポートを両側後方に倒します。



⚠ 注意

● 車椅子を折りたたむ際には、バックサポートのポケットの中に物が入っていないことを確認してください。
(ポケットの中の物が破損したり、車椅子の故障の原因となります。)

していただく

乗り方・降り方

⚠ 警告

- 車椅子に乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。
(車椅子が動き、転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく

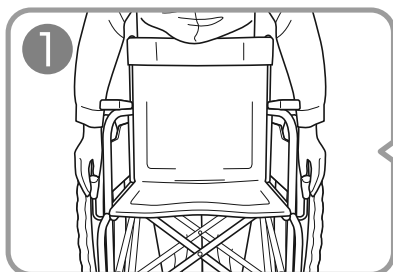
⚠ 注意

- 車椅子の乗り降りは、路面の平坦な場所で行ってください。
(車椅子が動いてバランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。)

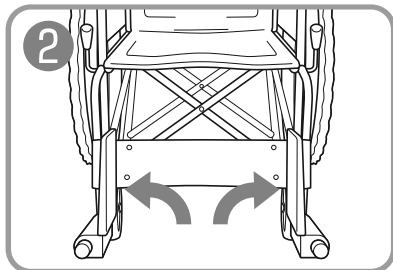
していただく

乗る時

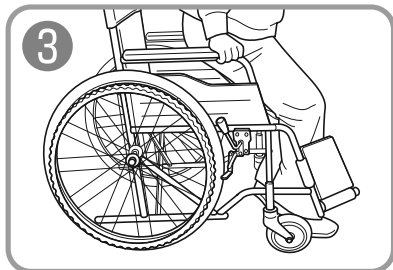
- ① 駐車用ブレーキを両側ロックします。



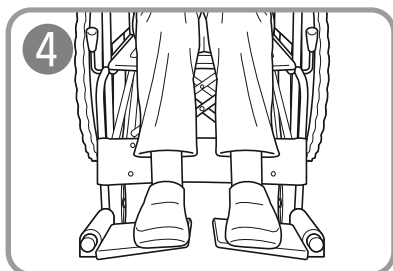
- ② フットサポートを両側跳ね上げます。



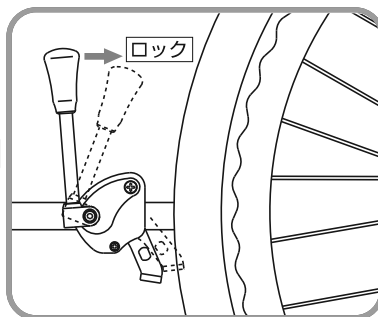
- ③ 両手で、アームサポートを持ちゆっくり座り込みます。



- ④ フットサポートに足を乗せます。

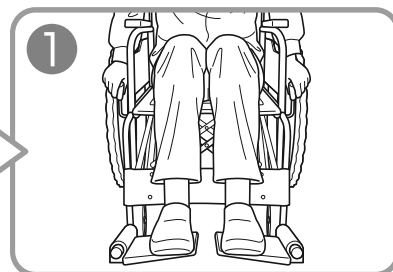


駐車用ブレーキ

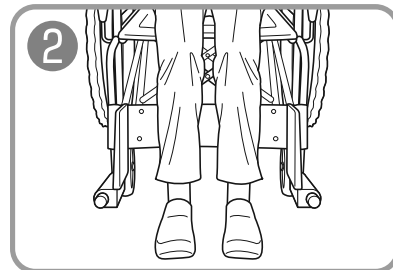


降りる時

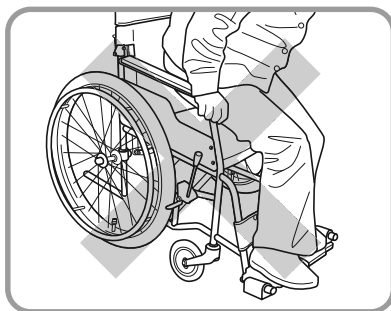
- ① 駐車用ブレーキを両側ロックします。



- ② フットサポートを跳ね上げ、足を下ろします。



- ③ 両手で、アームサポートを持ちゆっくり立ち上がります。



⚠ 警告

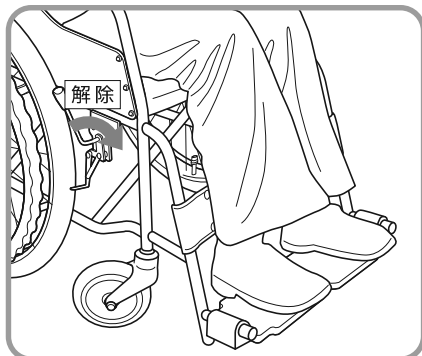
- フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
(車椅子がバランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。)

してはいけない

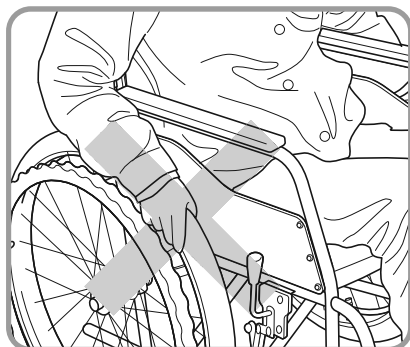
手動での動かし方

(遊歩アクティブの場合)

駐車用ブレーキのロックを解除する。



ハンドリムを握り車輪を
回転させ移動させる。



注意

- タイヤを持って車椅子を操作しないでください。
(駐車用ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。)

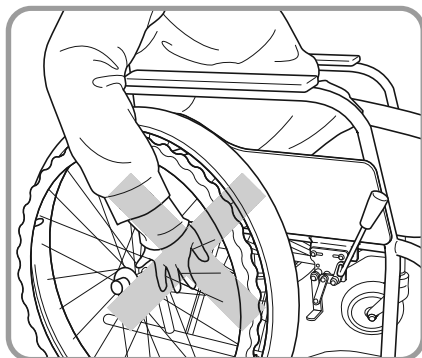
してはいけない



注意

- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。
(摩擦で手にケガをする恐れがあります。)

してはいけない



注意

- 走行中、身体を乗り出さないでください。
(バランスが不安定になり、転倒・転落事故等の原因となります。)

してはいけない

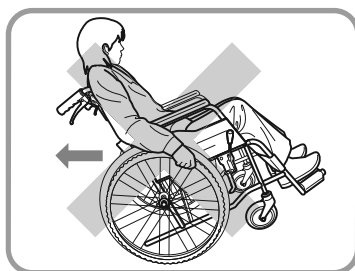


注意

- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。
(手や指を挟んで、ケガをする原因となります。)

してはいけない

※このような場合にはオプションのスポークカバーの使用をおすすめします。



注意

- バックしながら急停止しないでください。
(転倒・転落事故等の原因となります。)

してはいけない



注意

- 凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使わないでください。
(バランスを崩し、前に転倒・転落事故等の原因となります。)

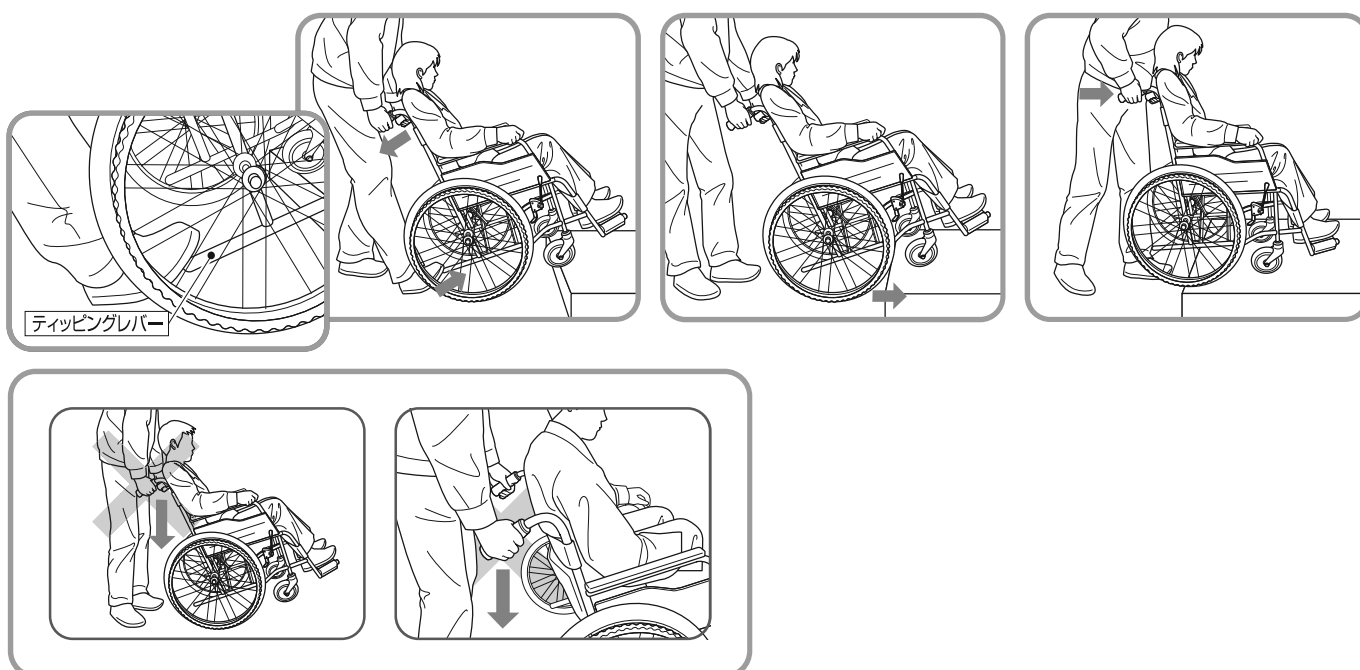
してはいけない

介助の仕方

次のような使用場所や環境では、危険が伴う場合がありますので、必ず介助者の方が付き添ってください。介助者が付き添っていない場合は周りの人に介助をお願いしてください。

- ・坂道
- ・踏切の横断
- ・側溝の格子蓋の横断
- ・悪路
- ・乗り物への乗車、降車
- ・段差乗り越え
- ・傾斜している路面

介助者の方は、段差を乗り越える場合は、ティッピングレバーを斜め前に踏みながらグリップを手前に引きキャスト(前輪)を上げ、キャスト(前輪)を段差に乗せてから、駆動輪(主輪)を段差に当て、押しながら乗り越えてください。



注意

- グリップのみで、キャスト(前輪)を上げないでください。
(バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒して事故の原因となります。)



警告

- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
(使用者が車椅子から転落して、事故の原因となります。)



警告

- 使用者が乗ったままの状態、車椅子を持ち上げないでください。
(使用者が車椅子から転落して、事故の原因となります。)



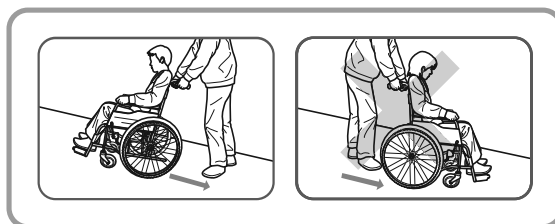
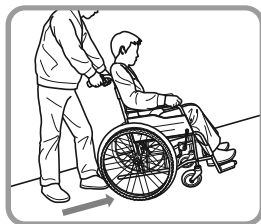
外出時の注意

介助者援助をお願いしてください。

坂道の登り下りでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいて行ってください。

登り坂

下り坂

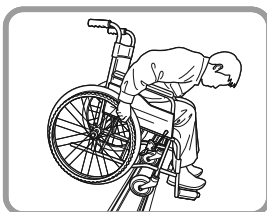
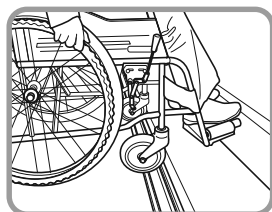
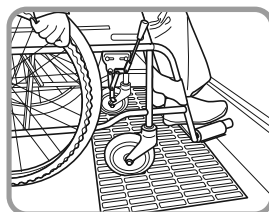


⚠ 注意

- 坂道を下るとき介助者は、下り坂の下側に立ち、確認しながら後ろ向きにゆっくりと走行してください。（前向きで下ると、使用者がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒・転落事故等の原因となります。）

していただく

介助者援助をお願いしてください。



⚠ 警告

- 側溝の格子蓋や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいて行ってください。（車輪が溝にはまって、転倒・転落事故等の原因となります。）

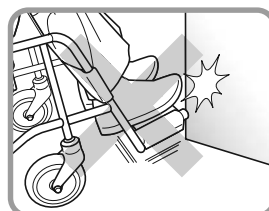
していただく

⚠ 注意

- 側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャスト（前輪）が落ち込まないように注意してください。（車椅子が急に止まり、使用者の身体が前方に傾き、転倒・転落事故等の原因となります。）

していただく

【介助者の方へ】



⚠ 注意

- 移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。

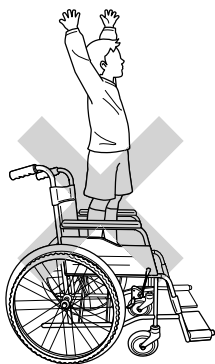
していただく

⚠ 注意

- フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。

していただく

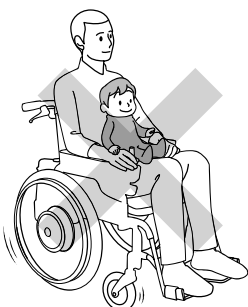
その他の注意



警告

- 車椅子のシートの上で立ち上がらないでください。
(転倒・転落事故等の原因となります。)

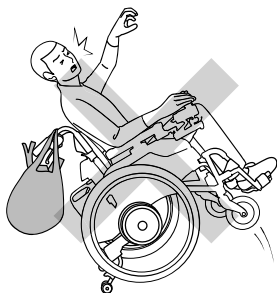
してはいけない



警告

- 二人乗りやけん引をしないでください。
(車椅子が故障したり、使用者がけがをしたりする
おそれがあります。)

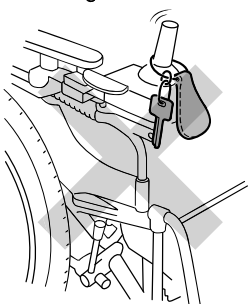
してはいけない



警告

- バックサポート(背もたれ)に重い荷物をかけたり、
小物入れに重いものを入れたりして走行しないでください。
(特に上り坂では後ろに倒れやすくなり、使用者や周囲の人が
けがをするおそれがあります。)

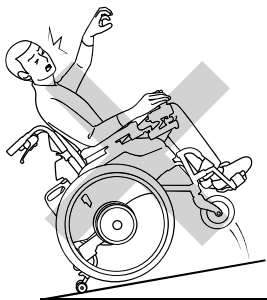
してはいけない



警告

- 自走用操作部のジョイスティックに物をかけないでください。
(物の重さで手を放してもジョイスティックが戻らず、
車椅子が停止しなかったり、操作の邪魔になったりする
おそれがあります。)

してはいけない

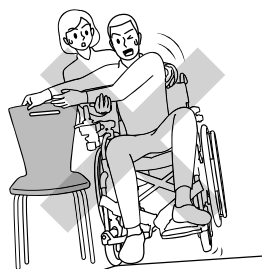


警告

- 勾配10%(6°)以上の坂道で車椅子を使用しないでください。
(転倒したり、制動が効かなくなったりするおそれがあります。)

してはいけない

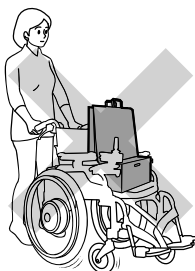
勾配10%(6°)以上



警告

していただく

- 車椅子への乗り移りは、平坦な場所で行なってください。
(傾いた場所で車椅子に乗り移ると、バランスを崩して、
車椅子から落ちてけがをするおそれがあります。)



警告

してはいけない

- 介助目的以外の使いかたをしないでください。
(車椅子が破損し、使用者や周囲の人がけがをするおそれ
があります。)

警告

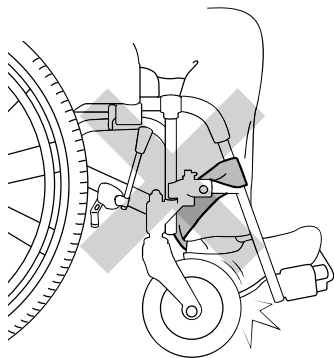
してはいけない

- 走行するときは、フットサポートを跳ね上げた状態にしない
でください。
(正しい姿勢が保てなかったり、足を巻き込まれたりして
けがをするおそれがあります。)

警告

してはいけない

- フットサポートの上に立ったり、
乗り降りの際にステップとして使用したりしないでください。
(バランスを崩し、転倒するおそれがあります。
また、フットサポートが破損する原因となります。)



警告

していただく

- かかとがフットサポートベルトで適切に保持されるように、
取扱店でベルトの張りを調整してください。
(かかとがキャスター(前輪)と接触して、
けがをするおそれがあります。)

警告

していただく

- バッテリー残量警告ブザーが鳴ったときは、
速やかに安全な場所に移動してください。
(道路横断中などに身動きが取れなくなると、事故の原因と
なるおそれがあります。安全な場所に移動してから
予備バッテリー(別売)に交換するか、
バッテリーを充電してください。)



警告

- 転倒防止バーが折りたたまれた状態で走行しないでください。
(介助操作で段差を乗り越えるときなどに限って、
転倒防止バーを折りたたんだ状態で使用できます。
しかし、そのまま転倒防止バーが折りたたまれた状態で
走行すると、車椅子が転倒するおそれがあります。)

してはいけない



警告

- 自走用操作部のUSB電源ポートにUSB機器を接続したまま
走行しないでください。
(障害物に衝突したときにUSB電源ポートに力が加わり、
自走用操作部が破損するおそれがあります。
接続したUSB機器のケーブルがジョイスティックや
クラッチレバー、リヤタイヤなどに巻きつき、
事故の原因となるおそれがあります。)

してはいけない



警告

- アームサポートを跳ね上げたまま走行しないでください。
(跳ね上げたまま走行すると、車椅子の使用者の身体が
リヤタイヤに触れたり、衣服が巻き込まれたりして、
けがをするおそれがあります。)

してはいけない



注意

- 車椅子を横向きに倒して、上に物を置かないでください。
(重みで車輪フレームが曲がったりして、故障の原因に
なります。)

してはいけない

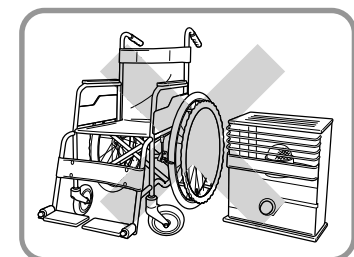
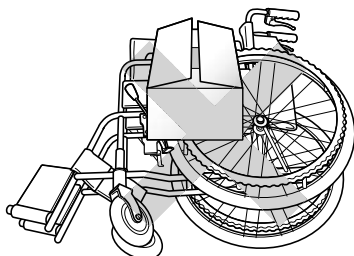
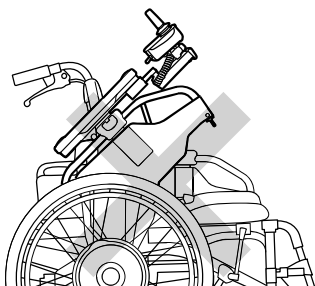


注意

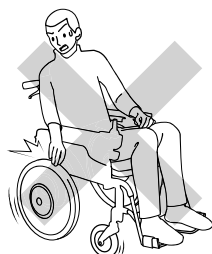
- 火気の近くに置かないでください。
(タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。)

してはいけない

〈対応機種 遊歩アクティブ〉



〈対応機種 遊歩ジョイ〉



警告

- 手漕ぎで走行したり、走行中にリヤタイヤやホイールに
触れたりしないでください。
(使用者がけがをするおそれがあります。)

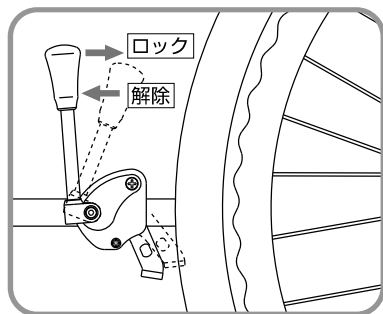
してはいけない

各部機能の使用方法

駐車用ブレーキ

- 車椅子をしっかり止める時に使用してください。
- ブレーキレバーを後方に引くとロックします。
- ロックした方向と反対に引くと解除します。

ミニタックル



警告

- タイヤの空気圧が低い状態で、使用しないでください。
(P.7 ご使用前に参照)
(駐車用ブレーキのロックができなくなり、車椅子が動き、事故等の原因となります。)

してはいけない

警告

- 車椅子に乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。
(車椅子が動き、転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく

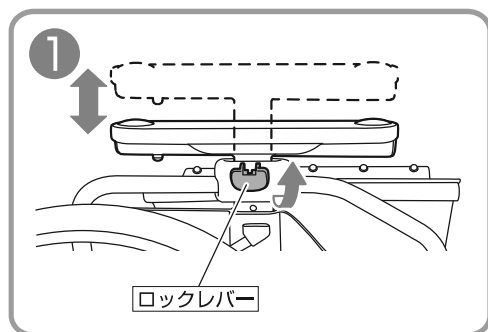
アームサポート

適用機種:遊歩アクティブ

高さ調整

●アームサポートの高さを4段階に調整することができます。

① ロックレバーを引き上げます。



② アームサポートを上下に調整します。

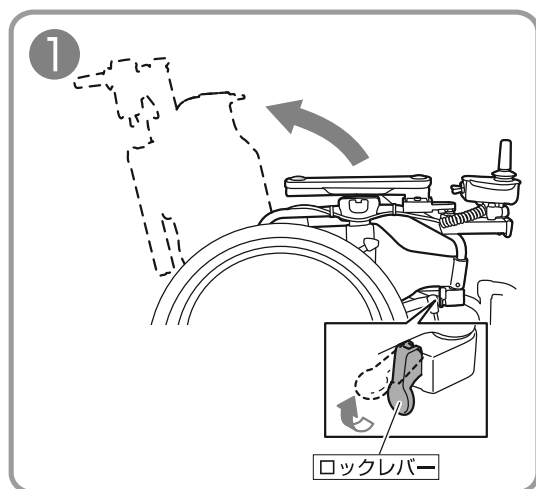
③ ロックレバーを降ろして、アームサポートを少し上下に動かすと、ロックの位置が合った段でアームサポートがロックされます。

④ アームサポートを揺らして、確実にロックされていることを確認します。

跳ね上げ

●車椅子の乗り降りなど、アームサポートが妨げになる場合は、アームサポートを跳ね上げることができます。

① ロックレバーを引き上げながら、アームサポートを跳ね上げます。



要 点

跳ね上げた状態で固定する機能はありません。一番後ろまで跳ね上げてください。

② 元の位置に戻すと、「カチッ」と音がしてアームサポートがロックされます。

適用機種:遊歩ジョイ

⚠ 警告

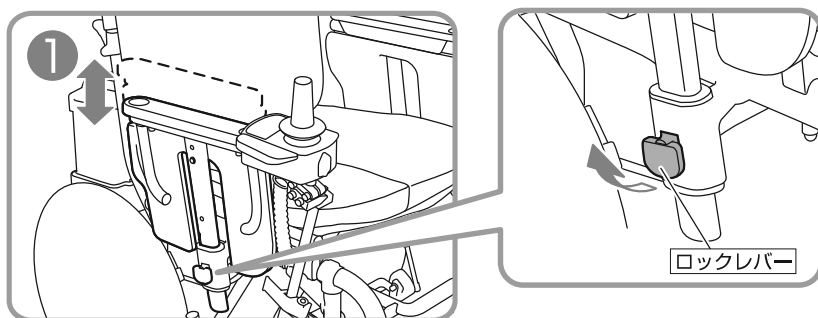
- アームサポートは必ずロックされていることを確認する。
(ロックされていない状態で走行すると、不意にアームサポートが動いて、車椅子から落ちるおそれがあります。)

していただく

高さ調整

- アームサポートの高さを3段階に調整することができます。

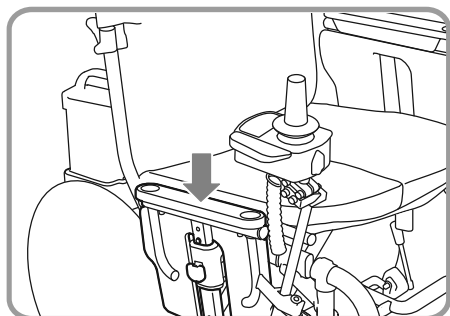
- ① ロックレバーを引き上げて、アームサポートを上下に調整します。



- ② ロックレバーを降ろして、アームサポートを少し上下に動かすと、ロックの位置が合った段でアームサポートがロックされます。
- ③ アームサポートを揺らして、確実にロックされていることを確認します。

格納

- 車椅子の乗り降りなど、アームサポートが妨げになる場合は、アームサポートを格納することができます。
- 高さ調整と同じようにロックレバーを引き上げて、アームサポートを座面の高さまで押し下げます。

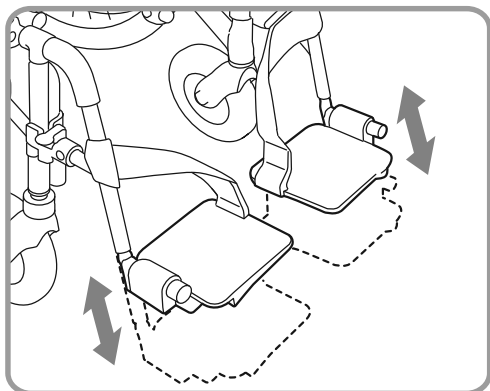


フットサポート

- 安全の確保のため足を載せます。

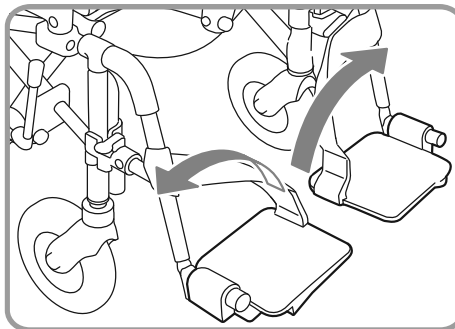
高さ調整

- フットサポートは、お身体に合った高さに調整できます。調整する場合は取扱店にご相談ください。



跳ね上げ

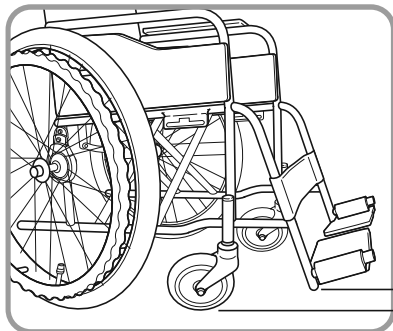
- 車椅子の乗り降りのときなどに、フットサポートを跳ね上げることができます。



⚠ 注意

- フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。
(フットサポートが脱落し事故の原因になります。)

していただく



⚠ 注意

- フットサポートの高さは地面より5cm以上で
ご使用ください。
(路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり
急に車椅子が止まり、転倒の事故の原因になります。)

していただく

↑ 5cm以上



- フットサポートの高さを調整しても、フットサポートが走行中に路面と当たることがある場合は取扱店に相談してください。
(走行中にフットサポートが段差などに当たり車椅子が急停止して、使用者がけがをしたり、フットサポートの下面側が削れたりするおそれがあります。)

していただく



- フットサポートの上に立ったり、乗り降りの際にステップとして使用したりしないでください。
(バランスを崩し、転倒するおそれがあります。また、フットサポートが破損する原因となります。)

してはいけない



- 車椅子を持ち上げるときは、絶対にフット・レッグサポートを持たないでください。
(不意にフット・レッグサポートが外れ、けがや機器の損傷の原因となります。)

してはいけない



- 走行するときは、絶対にフット・レッグサポートを取り外した状態にしないでください。
(正しい姿勢が保てなかったり、足を巻き込まれたりしてけがをするおそれがあります。)

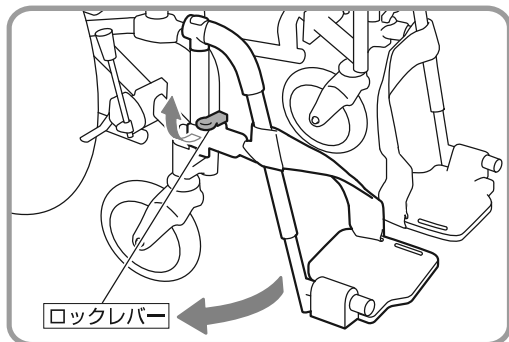
してはいけない

フット・レッグサポート

適用機種:遊歩アクティブ

開きかた・戻しかた

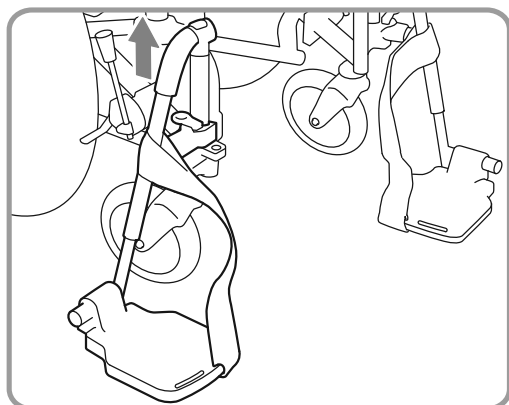
- ① ロックレバーを矢印方向に引きながら、フット・レッグサポートを外側に回転させます。



- ② フット・レッグサポートを元の位置まで戻すと、「カチッ」と音がしてロックされます。
- ③ フット・レッグサポートを左右に揺らして、確実にロックされていることを確認してください。

取り外しかた・戻しかた

- ① フット・レッグサポートを外側に開いてから、上に引き抜きます。



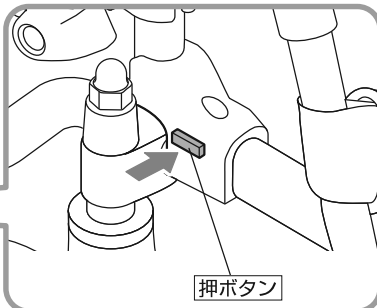
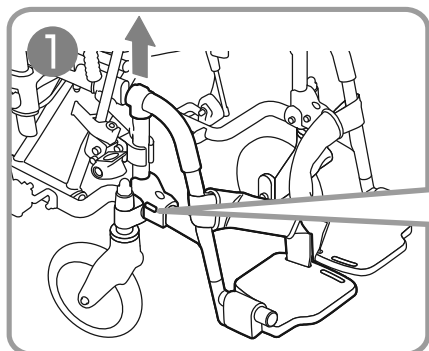
- ② 戻すときは、フット・レッグサポートを外側に開いた向きで差し込んで、元の位置に戻します。
- ③ 元の位置まで戻すと、「カチッ」と音がしてロックされます。
- ④ フット・レッグサポートを左右に揺らして、確実にロックされていることを確認してください。

適用機種:遊歩ジョイ

取り外し

- 車椅子の乗り降りするときや車椅子を折りたたむときなどに、フット・レッグサポートを取り外すことができます。

- ① 押ボタンを押しながら真上方向に引き抜きます。



- ② 戻すときは、向きを合わせて上から差し込みます。
- ③ 元の位置に戻した後は、フット・レッグサポートを揺らして、確実にロックされていることを確認してください。

もしこんなトラブルが発生したときは

車椅子をご使用されていて「故障かな」と思うトラブルが発生したら、修理を依頼するまえに下記項目を確認してください。

ト ラ ブ ル	確 認 点	対 処
タイヤの空気が少ない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気入れてください
空気を入れてもすぐに抜ける	・タイヤの空気入れ部のトップナットは、しっかり締まっていますか	しっかり締め直してください
	・スーパervalブ(または虫ゴム)が劣化していませんか	スーパervalブ(または虫ゴム)を交換してください
走行操作が重い	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・駆動輪(主輪)・キャスト(前輪)に髪の毛、ビニール等が巻きついていませんか	取り除いてください
真っ直ぐ走らない	・キャスト(前輪)が片べりしていませんか	取扱店にご連絡してください
バックサポート折りたたみのロックピンが入らない	・車椅子を払げて、バックサポートを折りたたみしていませんか	車椅子を折りたたんで、行ってください
ブレーキが効かない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・タイヤは、摩耗していませんか	取扱店にご連絡してください

■故障、異常のある際は、直ちに使用を中止してください。

車椅子のお手入れの方法

■清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。

揮発性剤(シンナー・ベンジン・アルコール類)では、清掃しないでください。

変色したり、劣化の原因となります。

ホースなどで、直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部に水滴が残り、錆の原因となります。

■タイヤの空気圧は、適正空気圧に保ってください。

空気圧が低いときは、補充してください。

■タイヤには、ひび割れを防ぐ為に老化防止剤が配合されていますので、次のような環境及び薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。

- オゾン(O₃) ●光線(日光)、熱・伸張等の機械的作用。
- 銅・マンガンのような金属の塩、石鹼などの容易に酸化される物質。
- シリコン系ワックス(自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤(錆落とし含む))。

■車椅子に異常がある場合は、取扱店で、点検・修理を行ってください。

そのままの状態で使用されますと、使用中に破損し、事故の原因となります。

- タイヤの劣化・ひび割れ・空気漏れ
- フレームのひび割れ・曲がり・ガタツキ
- 各部固定部品の変形
- 駆動輪(主輪)・キャスト(前輪)の変形
- ボルト・ナット・ビスの緩み
- ブレーキの効き具合

保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。故障の原因となります。

- 雨に濡れるようなところ ●直射日光が当たるようなところ ●湿気の多いところ ●高温(45℃以上)になるところ ●炎天下

保証

●保証期間は、お買上げ後1カ年です。(本体、付属品共)

ただし、次の場合は、保証期間中でも有償修理とさせていただきます。

1. 火災、天災による故障・損傷の場合
2. 取扱説明書に記載の使用方法、ご注意に反するお取扱いによって発生した故障の場合
3. 無断仕様変更及び、改造による故障の場合
4. タイヤの摩耗、パンク、シートのやぶれ、ブレーキ、ワイヤ、ブレーキゴム等の消耗品、及び各部の劣化による故障、損傷の場合
5. 修理に要した運賃等の諸経費

●この保証書は日本国内のみ有効です。

アフターサービス

万一故障の場合は、お買上げいただきました販売店へ保証書ご持参の上、修理をお申しつけください。

serio セリオ

〒433-8104

静岡県浜松市中央区東三方町258-1

車椅子 点検シート

安全にご使用していただくために、ご自身・お買い求めの販売店で定期的に点検をしていただくようにお願いします。

(長期間ご使用にならなかった場合は、ご使用前に点検をしてください)

点検の結果、異常があった場合はご使用にならず、調整・部品交換をしてからご使用ください。

点検項目		年 月 日					
		点 検 者					
キャスタ(前輪)	亀裂・キズの有無						
	キャスタの摩耗						
	スムーズな回転						
フォーク	損傷の有無						
	スムーズな旋回						
駆動輪(主輪)	タイヤの空気圧(エアータイヤのみ)						
	タイヤの摩耗						
	スムーズな回転						
	ホイールのキズの有無						
	スポークの緩み(遊歩アクティブのみ)						
フレーム	各部キズの有無						
	ボルト・ナットの緩み						
	スムーズな折りたたみ						
ブレーキ	ブレーキの効き						
シート	シートの破れ・損傷						
	シート固定ネジの緩み						
フットサポート	固定ボルトの緩み						
	プレートの破損						
アームサポート	固定ボルトの緩み						
	パッドの破損						
その他							

■異常のある際は、直ちに使用を中止してください。

クッションカバーなどの洗濯

洗濯表示はJIS規格に則って表示されています。



バックサポート(背もたれ)クッション、シートクッションは、手洗い、またはドライクリーニングが可能です。

ほかの淡色のものと分けて洗ってください。

保証書

■ご住所 〒 TEL () - -	
■お名前 様	■お買い上げ日 年 月 日
■販売店 住 所 店 名 T E L	

印